

# 文科省に聞く！

## 魅力ある教育を世界に発信し オールジャパンで国際化を促進

量的には「留学生30万人の受け入れ」という目標を、質的には「世界により開かれた国になる」という目標を立てて、オリンピック・パラリンピックの開催が予定されていた2020年度を目標に、高等教育の国際化を推進してきました。コロナ禍を経た今後は、一度は目標を達成した留学生数の回復とともに、質的目標の実現に力を入れていきます。ポイントは、これまで国際化をけん引してきた大学等の実績を横展開することです。一部の大学だけでなく、日本の高等教育全体が世界への視点を持ち、多様な魅力を発信する必要があります。「大学の国際化促進フォーラム」では横展開を促し、自律的に取り組みが発展する組織づくりをめざしています。

フォーラムは、プロジェクトの主幹となる幹事校と会員校で構成されています。幹事校に期待するのは、自プロジェクトに加わる大学を先導するだけでなく、他プロジェクトとの連携を探る役割です。プロジェクト内の連携、プロジェクト同士の連携と、横展開が重層的に進めば、各校が多様な視点で国際化を進められるはず。それを実現するためにも、より多くの大学のフォーラムへの加入を願っています。他校と協働する過程で、国際化における自学の進展度合いやめざす立ち位置も見えてくるのではないのでしょうか。

フォーラムの中核的な役割を果たすプロジェクトが、オンライン国際教育プラットフォーム「Japan Virtual Campus」構想です【図表3】。国内外の大学等が作成したオンライン教育コンテンツを、国内外の組織、個人に有償で提供するシステムで、提供のしかたが異なる2つの「BOX」を備えています。「戦略的パッケージBOX」は、世界的にニーズが高いと思われるコンテンツを国内外の大学等と協力して構築し、パッケージ化して提供するものです。日本の教育に対する認知度を高めるための、いわば「オールジャパン」のコンテンツ群です。パッケージ修了者には、単位やマイ

## 「大学の国際化促進フォーラム」で大学間連携を支援 世界に開かれた日本の大学々々を実現する

文部科学省 高等教育局  
主任視学官  
高等教育国際戦略PTリーダー  
**岸本 織江**

きしもとおりえ ●1993年文部省入省。  
高等教育局学生課企画係長、横浜国立大学准教授、研究振興局学術研究助成課企画室長、内閣府知的財産戦略推進事務局参事官、文化庁著作権課長などを経て2021年10月より現職。



ククレデンシャル\*4などを付与する計画もあります。一方で「個別機関BOX」は、利用料を払えば、希望する全ての大学等がコンテンツをアップできるBOX。各大学が自らの戦略に基づき独自に運営し、世界に向けて自学の教育をオンラインで提供する利用方法を想定しています。MOOCs\*5との違いは、個人のみならず大学等の機関による利用も見込んでいる点です。また、コンテンツを提供するだけでなく、海外からのアクセシビリティを高めるためのポータルサイトとして利用し、留学生の獲得につなげるなど、リアルな教育・交流の充実を促すことにも活用できるとしています。

### 国際的な課題に前向きに立ち向かう 人材の育成を期待

現代においては、本国だけで解決できる課題は、ほぼ存在しません。多様な国の人と協調して課題解決にあたる必要があり、そこで先頭に立てる人が日本でも求められています。日本の学生は、国や地球という大きな単位の課題に対して「自分では解決できない」と思いがちですが、自由度の高い大学での学びこそが解決に前向きな姿勢を育てる力になると考えます。海外も含め、さまざまな学生、教員、社会人と出会い、対話を重ねる中で、大きな課題と向き合うための、その人なりの道筋が見えてくるのではないのでしょうか。

フォーラムの活動支援のほかに、海外大学とのジョイント・ディグリーを促進するための制度改正など、今後の高等教育の国際化戦略を現在検討中です。その参考に大学へのヒアリングを行っています。皆様からも国際化を進めるにあたっての要望などを、積極的に寄せていただきたいと思います。

【図表3】「Japan Virtual Campus (JV-Campus)」の概要



\*国際的オンライン教育プラットフォーム「JV-Campus」開設準備ポータル <https://www.jv-campus.org/> ※筑波大学作成の構想図を基に編集部にて作成

\*4 学習を少量の単位で個別認証すること  
\*5 大規模公開オンライン講座を意味する「Massive Open Online Courses」の略

【図表1】高等教育における国際化施策の主な流れ

事業名	主な目的	事業期間						
		2009...	2012...	2014...	2016...	2021...	2023	2024~
グローバル30	インバウンド強化		●	●	●	●	●	●
GGJ (Go Global Japan)	アウトバウンド強化			●	●	●	●	●
SGU*1	大学改革、体質改善等					●	●	●
大学の国際化促進フォーラム	横展開の強化						●	●

\*1 スーパーグローバル大学創成支援事業

【図表2】「大学の国際化促進フォーラム」のプロジェクト一覧

テーマ	幹事校	プロジェクト名
プラットフォーム構築	筑波大学	オンライン国際教育プラットフォーム「Japan Virtual Campus (仮称)」構想
効果測定	広島大学	国際交流プログラムの効果の客観的評価テスト開発及びその普及-BEVI*2および因果推論を用いた留学・学習効果の客観的測定・教育プログラムの質保証-PDCA・教育的介入-
大学間ネットワーク	東京大学	国際競争力強化に向けた「戦略的パートナーシップ」のネットワーク構築
学生の交流	法政大学 明治大学	大学間協働による学生国際交流プラットフォーム構築プロジェクト 海外拠点×オンライン×実留学のグローバルシナジー・モデルの構築
国際共修	東北大学 東洋大学	国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開 アジア・太平洋地域におけるオンライン協働教育:UMAP*3を基盤とするSDGsオンライン協働学習とバーチャル模擬国連
国際PBL	芝浦工業大学 千葉大学	イノベーション創出のためのグローバルPBLの横連携・展開(手法の共有と共同実施) デザイン思考にもとづくPBLチームワーク型国際協働学習プログラムの促進
COIL型教育	関西大学 琉球大学	Japan Multilateral COIL/VE Project(J-MCP) -多方向・多国間COIL/Virtual Exchange型教育プロジェクト- COILを活用した持続的グローバル・イノベーション人材育成プロジェクト
ジョイント・ディグリープログラム	立命館大学 名古屋大学	学士課程におけるジョイント・ディグリー・プログラム等の国際連携による学位プログラムの質向上と高大連携の促進 我が国の大学教育国際化に資するジョイント・ディグリープログラムの促進-全国大学ジョイント・ディグリー協議会による推進-
英語力の向上	京都工芸繊維大学	「リンガフランカ(国際語)としての英語」運用能力を測定するためのCBT英語スピーキングテスト実施プログラムの横展開
日本語教育	東京外国語大学 東洋大学	オンライン日本語教育の提供を通じた大学海外拠点・オフィスの協働化プロジェクト 東洋大学「ビジネス日本語」オンライン講座を通じた高度日本語人材の育成
留学生募集	東京医科歯科大学 大阪大学	世界と伍する修士課程プログラム創出/運営のための課題と工夫 多様な文化・言語圏からの留学生リクルート:バーチャル大学ツアーの実施
留学生の地域定着	金沢大学	地方の国際化と活性化を推進する留学生キャリア形成・地域定着促進プロジェクト

\*2 留学の学習成果を客観的に測定するための心理分析テスト。The Beliefs, Events, and Values Inventory \*3 University Mobility in Asia and the Pacific  
※図表1, 2は文部科学省資料などを基に編集部にて作成

**オールジャパンで日本の高等教育発信強化へ**  
国による高等教育のグローバル化施策の一つとして2021年9月に発足した「大学の国際化促進フォーラム」(以下、フォーラム)は、先駆的な大学の実践を他大学に横展開し、オールジャパンで世界に向けて日本の教育力を発信する取り組みだ。フォーラムへの加入は、他大学との連携によって自学的グローバル化をレベルアップさせるチャンスになり得る。  
これまで国は、「留学生30万人計画」の一環としてインバウンドの強化を図った「グローバル30」アウトバウンド強化を目的とした「GGJ」、国際化を軸に徹底した大学改革を促す「SGU」等の施策を講じてきた【図表1】。留学生30万人という量的目標は2019年度に達成したものの、コロナ禍による渡航制限があり、現在は再び30万人を割っている。一方で、オンラインを活用した教育や交流は急速に進展。こうした状況に各大学の個人戦ではなく、オー

ルジャパンの「団体戦」で立ち向かうというのが、フォーラムの狙いだ。知見や基盤の共有を進めて教育の国際競争力を底上げし、まずは「日本で学ぶ」という選択肢で世界の注目を高めたい考えた。フォーラムでは、日本発のオンライン国際教育プラットフォーム「Japan Virtual Campus」の構築をはじめ、国際化の基盤形成から効果測定まで計19プロジェクトを展開【図表2】。2021年11月時点での会員数は各プロジェクトの幹事校を含め113団体で、今後も希望する高等教育機関等は加入が可能だ。フォーラムの運営は、将来的には会員が納める会費によってなされる予定だが、SGUの事業期間中の2023年度末までは会費は徴収されない。フォーラムには加入しなくてもプロジェクトには参加できるが、各プロジェクトの進捗を情報収集する目的で、フォーラムの加入を検討する意味はあるだろう。フォーラムの加入やプロジェクトへの参加については、下記のWebサイト参照されたい。

大学の国際化促進フォーラム <https://tgu.mext.go.jp/forum/>

取材・文/見山雄介 撮影/亀井宏昭

## REPORT

# ポスト「留学生30万人計画」の課題は？